

会議記録

会議名	令和2年度 第2回 杉並区文化・芸術振興審議会
日時	令和2年11月30日(月) 午後6時00分～午後7時23分
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
出席者	〔委員〕 曾田修司(会長)、後藤朋俊(副会長)、菊地一浩、小林信恵、佐藤信、服部洋、米屋尚子、小林真理、高和弘、谷原博子、富澤武幸 〔区〕 地域活性化担当部長、文化・交流課長 〔事務局〕 文化・交流課
欠席者	なし
配布資料	資料1 第2回杉並区文化・芸術振興審議会席次表 資料2 すぎなみアート応援事業～アートを応援、アートで応援～(報告) 資料3 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について 資料4-1 基本構想とは 資料4-2 杉並区基本構想審議会委員名簿 資料4-3 文化・芸術の振興(総合計画施策30)
会議次第	〔議事〕 1 すぎなみアート応援事業の実施状況について 2 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について 3 杉並区基本構想審議会の主な経過(文化・芸術分野)について 4 その他 ・杉並応援曲「Go for it !」について など 5 事務連絡 ・今後のスケジュール等の確認 ※第3回文化・芸術振興審議会(令和3年3月開催予定) など
主な発言	別紙のとおり

発言者	発言内容
	<p align="center">－ 開会 － （午後6時00分）</p>
	<p>1 すぎなみアート応援事業の実施状況について</p>
文化・交流課長	<p>それでは、定刻でございますので、これより令和2年度の第2回杉並区文化・芸術振興審議会を開会いたします。</p> <p>本日はお忙しいところ、そしてまた、都内の新規感染者数が少し増えているような状況の中お越しいたしまして、誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、これより議事進行につきましては会長よりお願いいたします。</p>
会長	<p>皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。第2回杉並区文化・芸術振興審議会を開会いたします。</p> <p>まず、事務局から連絡がありましたらお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>初めに、本日配付させていただいております資料について確認させていただきます。</p> <p>資料に不足等はございませんでしょうか。</p> <p>では、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それなりに盛りだくさんの議題になっておりますが、1番、「すぎなみアート応援事業の実施状況について」、2番、『スギナミ・ウェブ・ミュージアム』について、3番、「杉並区基本構想審議会の主な経過（文化・芸術分野）について」、その後、「その他」ということで、それぞれに皆様からご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>ではまず、次第の1、「すぎなみアート応援事業の実施状況について」、ご説明をお願いします。</p>
文化・交流課長	<p>それでは、私から「すぎなみアート応援事業の実施状況について」、ご説明させていただきますので、資料2を御覧いただければと思います。</p> <p>前回、第1回の文化・芸術振興審議会におきましても説明をいたしました「すぎなみアート応援事業」ですが、こちらは文化・芸術の場と活動を一体的に支援することを通じて、区民等が文化・芸術を楽しむことができる環境を確保することを目的に、大きく3つの柱として、「文化・芸術発信の場継続給付金」と「新しい芸術鑑賞様式助成金」、それから、「日本フィルハーモニー交響楽団の活動支援」となっております。こちらの3事業を本年6月から実施してまいりました。</p> <p>場の継続給付金につきましては国の持続化給付金と連動させていることもございます。来年1月末までの募集期間となっておりますが、新しい芸術鑑賞様式助成金につきましては、本年の10月23日で、3期全て申請を締め切りましたので、各事業の現時点での状況についてお伝えできればと思います。</p>

	<p>まず初めに、11月末、本日時点におきます「文化・芸術発信の場継続給付金」の申請件数は、想定100件程度としておりましたが、申請としては97件ございまして、実際に給付した数が90件となっております。主な不承認の理由としましては、文化・芸術の発信の場ではなく、施設の主目的が飲食中心であったりとか、そういった対象の施設だったということになってございます。</p> <p>続きまして、「新しい芸術鑑賞様式助成金」につきましては、6月から10月にかけて募集をいたしました。想定件数600件としておりましたが、最終的に応募件数は634件、承認件数は596件となっております。</p> <p>内訳は、第1期の申請が288、承認が266、第2期の申請が110、承認が103、第3期が236、承認が227件となっております。いずれの助成金も当初の募集想定件数とほぼ同数の結果となっております。</p> <p>続いて、「日本フィルハーモニー交響楽団の活動支援」につきましては、年度内に日本フィルが杉並公会堂で行う6公演を支援の対象としておまして、1公演当たり最大220万円まで支援することとなっております。</p> <p>1回目は、「日本フィル杉並スペシャル・夏」という公演が8月30日に行われまして、2回目は同様に「日本フィル杉並スペシャル・秋」が9月27日に行われました。来場者数は、第1回目は389名、第2回目が449名と伺っております。</p> <p>今後は、来年1月20日に「日本フィル杉並スペシャル・冬」と、3月20日と3月28日は1日に2公演ということで、「日本フィル杉並スペシャル・春」を予定してございます。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回、コロナウイルス感染ということがあり、この3つの事業を立ち上げて、いずれも想定に近い形の活動を実際に応援されたということで、非常に素晴らしい対応だったと思います。</p> <p>では、事務局のほうから、事業をやったことによる区民からの反応等を少しお聞かせいただければと思いますが、お願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>今回の助成事業を通しまして、文化・芸術関係者の方からは、コロナ禍において活動を再開する大きな後押しになったという肯定的な声を多く頂いているところでございます。</p> <p>具体的なお声を紹介しますと、「助成がとてもありがたく、感謝いたします。メンバー4人で考え、安心して聞いていただけるコンサートができるようにいたします」。ほかには、「助成金に頼ってばかりはいられませんが、今回、申請の支出の大部分を占める作品借料を支払うには、助成金がないと本当に難しい状況でした」。</p> <p>ほかのお声ですと、「コロナ禍で芸術活動の機会が次々と失われていく中、このような助成金の制度を作っていただき、ありがとうございます。これを</p>

	<p>機に、コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら活動を再開し、新しい芸術鑑賞様式で杉並区の皆様と音楽の力・楽しさを共有していきたいと思えます」ということで、お手紙だったり、担当職員が電話で直接お声をいただいたりということ、かなり有効に活用していただいているところでございます。</p> <p>今回、先ほど報告しましたとおり、応募件数が見事に想定件数に近いところで、非常に効果的な事業ではあったのかなと考えてございます。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>副会長は日本フィルハーモニーの当事者でもいらっしゃいますが、事業をやってみた結果はどのように考えていらっしゃいますか。</p>
副会長	<p>まず、この場をお借りいたしまして、日本フィルにご理解とご支援をいただきまして、本当にありがとうございます。我々も今こういう状況の中でも、いろいろオンライン配信ですとか、そういうことでやってきましたけれども、ようやく会場に実際にお客様をお迎えしてのコンサートが始まって、音楽を通しての心の交流というのは改めて大切だなと感ずることができました。</p> <p>また、公会堂さん、杉並区さんのご協力を得て、こういう演奏会をまた再開できるということで、我々の活動の中心がこの杉並であるということを楽員1人1人がまた改めて確認して、やはり我々は身近な皆さんに支えていただいているということ、この感謝の気持ちを込めて演奏をさせていただけることに本当に幸せに思っております。</p> <p>まだ多くの方にいらしていただくということは、こういう状況の中で非常に難しいですけれども、会場でも久しぶりにオーケストラを聞くことができ、いろいろ不安なこともありましたが、来てみると、公会堂さんもそうですし、皆さんが本当に注意を払っていただいて、安心して聞ける場を提供していただいたということにも感謝しております。これを自分だけじゃなくて、周りの方にも広めて、ぜひ演奏会に1人でも多くの方に来ていただけるように私も頑張りますというお客様もいらしていただいて、本当にうれしい限りです。</p> <p>今、入場率も100%になりましたけれども、今後も安全を第一に、そこに安心していらしていただけることを我々も1つの重要課題と思っておりますし、安心した上で我々の演奏を聞いていただくことがこれからも必要だと思いますので、これからも皆様の力をお借りして、何とかこの危機を乗り越えて演奏活動をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本当にありがとうございます。</p>
会長	<p>では、ここで令和3年度助成金についてのご説明をいただくことでよろしですか。</p>
文化・交流課長	<p>今年度のすぎなみアート応援事業は非常に効果的にうまくいきましたが、来年度、令和3年度をどのように展開するかという話がございます、正直なところ、区の財政状況が非常に厳しい中で構築しなくてはならないことに</p>

	<p>なっております。令和2年度は2億3,000万規模で、国の補助も使いながら実施できているところですが、例えば活動の助成金ですと、10分の10の補助で上限30万という形ではありましたが、そういった補助率ですとか上限金額も含めて、令和3年度はどのようにするかというところで、今ちょうど議論を行っているところでございます。</p> <p>ですので、助成金の在り方というところで、具体的に補助率がどうだとかいう話までは難しいと思いますので、何か方向性的なもの、財政上厳しい中でどのように構築していけばいいかということで、少し何かご意見等があればいただきたいと思っております。</p>
会長	それぞれの委員の方からご意見があれば頂くということによろしいですか。
文化・交流課長	はい。
会長	<p>それでは今年度の取組を受けて、来年度について何か委員の方からご意見があれば承れればと思います。</p> <p>今年の感想というか、やったことについてのご意見その他も含め、一言ずついただけるとありがたいと思います。それではよろしくお願いします。</p>
委員	<p>今年度の活動を守る取組は、非常に広範囲の方々に支援ができたというのは大きな成果だったと思います。ただ、それは見方を変えると、広く浅く助成しているところはあるんですが、でも、そういう方々が活動することによって、区内にあるライブハウスであるとか、小さな劇場であるとか、そういったところの活動が継続できたことはやっぱり意義があったと思います。</p> <p>ただ、来年度、もしその財源が限られてくるといったときには、少し絞った形でプログラムを組み直したほうがよろしいのかなという印象は持っております。その場合に、ここまでコロナの影響が長引いてきますと、活動の基盤を継続することが非常に困難になっている組織が幾つも出てきているのではないかなと推測しますので、場やスタジオを構えているようなところにより厚く何か支援が届くように少し修正をしていただいたほうがいいのかなど。</p> <p>これは政府そのものがそういう方針ですけれども、何か活動をした人にだけ与えるというところで、純粋な給付はほとんどしてもらえなかったというのが今年の現状です。皆さん、苦しい中で活動しているところですが、何か配信をしたらお金がもらえるとか、公演をしないとお金がもらえないとかいうことに皆さんあえいでいらっしゃるの、そこを見直したほうがいいのかなどは思っております。</p> <p>以上です。</p>
会長	ありがとうございました。引き続き、お願いします。
委員	私も、この制度は本当にすばらしくて、一自治体でこのようなことをやったということについては、杉並区民の人は本当に誇りを持っていいのかなというぐらいすばらしい制度だったと思います。

	<p>今、おっしゃったように、どちらかという、かなり何でもありみたいのところはあったと私は思っております、来年度は、今度、この財源を有効に生かして、区民の税金といたしますか、国民のそういったものをベースにして、文化・芸術ということでしたら、地域とか区民にどのように還元していくのかという視点が評価の基準に1つあったらいいのかなと。</p> <p>あと1つは、ウェブ配信だけではなくて、少しでも多くの区民の人たちに、どのように芸術のすばらしさ、文化のすばらしさに触れていくのか、そういったあたりのところはやはり今後の1つの基準の中に盛り込んでいいのかなという感じがしております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>たまたま近隣で行われていた善福寺公園周辺のトロールの森、野外アートを割とまめに今回観察していましたが、事務局によると例年よりも人手が多かったと。そういう意味では、これだけいろいろな芸術活動が自粛になる中で、こういった機会を待ち望んでいる人たちが多かったという結論に至っております。</p> <p>そのためにも、多分これからウィズコロナの時代のやり方のヒントというのは、今年30万円を助成した中に、何かしらのアイデアで感染とうまく付き合いながら芸術活動を止めないでやってきた団体が1つ2つはきっとあるはずということで、今回助成した団体の中の効果といたしますか、そのあたりをもう1回検証して、こういった形がモデルケースになるということ併せて発信して行って、来年につなげるのも1つの方法じゃないかなという気はいたしました。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。具体的な提案をいただきまして、非常に効果があるというか、ぜひやらなければいけないことではないかと思いました。</p> <p>引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>まず、我々の傘下の団体も数多くの申請を出させていただきまして、非常にありがたいと感じております。ただ、コロナ禍の収束の見込みを考えますと、今年よりも来年のほうがはるかに厳しくなるのではないかなと案じていますし、事業の継続も楽観できないと気を引き締めています。</p> <p>今回の「新しい芸術鑑賞様式助成金」は発表することによっての助成ですが、それらを制作、運営していく組織の事業継続や維持のための助成制度をお作りいただければとてもありがたいです。</p> <p>高付加価値のコンテンツを作りながら事業を継続する上でも、コロナ禍を乗り越え、コロナ後に向き合うためにも、運営組織の維持は必須と考えています。ご検討をお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。来年の制度設計が非常に重要であると。あるいは今までになかった助成制度ができれば、ほかにも波及していくのではないかと。ということまで含んだ形のご提案をいただいたかと思えます。</p> <p>引き続き、お願いします。</p>

委員	<p>近隣のアーティストなどからも、杉並区はすばらしい、うらやましいというお声は出ていましたので、すばらしい成果だと思います。ただ、先ほどありましたように、やっぱり1度ちゃんと検証をされたらと思います。もちろん、よかったですと言ってくれる人は積極的に声を出してくださると思いますが、こういうところで使いにくかったとか、もっとこうあってほしかったというのがもしかしたらある気がしていて、むしろそういうのを率直に言っていただける聞き方をされてはどうでしょうか。</p> <p>私の知り合いの俳優の人が、その人は杉並区ではないですが、活動をしてくださいと言われたときに、活動はしたいけれども、もし万が一自分がコロナになって、その方はひとり芝居などをされている方ですが、公演を打つための準備をして、それでコロナになったら、その経済的損失をまた全部自分で持つかと思うと怖くてできないみたいなことをおっしゃっていました。なので、どういう支援というか、補償の仕方をすればいいのか、いろいろなアートの形態によって違うと思うので、せっかく1回やられたので、そこら辺を検証されるといいのではないかと思います。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次へのステップということで、いろいろ具体的にご提案いただき、ありがとうございました。</p> <p>引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>私どもは杉並区の文化団体連合会、傘下に27団体ありますが、今回3団体応募しまして、2団体はコロナに対してちょっと難しいということで自主的にやめましたけれども、1団体だけ区民書道展をやりました。これは杉並区書道人協会が主催をしまして、10月2日から6日まで5日間、セッション杉並で開きました。</p> <p>杉並区のほうからコロナに対する安全の配慮もいろいろ指導を頂きまして、結局、区民から120点が集まって開催したわけですが、5日間で約500人の区民の方々がお見えになりました。その書道展は毎年やっていますが、何とか1団体継続できました。</p> <p>ただ、私、今思いますのに、これは大変ありがたかったのは、結局、展示をするのにお金がかかりますので、30万を有効に使わせていただきまして、私どもは大変うれしいと思いましたが、今皆様のご意見を聞いていると、効率的にちゃんと役に立つものを作っていきたい。ちょっとお話を聞きますと、杉並区でも医療関係を含めて予算をコロナ対策に使われたようで、国からの支援もごございますようですが、大変厳しい財政状況と伺っております。やはり選別して有効なものをしていくように、我々、やるほうとしても考えていきたいなと思っております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>今いろいろ皆様のご意見を伺わせていただいて、確かに確かにと思いましたが、さっき別の委員がおっしゃったように、私もトロールの森に2度、3度と行きました。ワンちゃんのお散歩というものもありますが、</p>

	<p>いつになくにぎわっていて、小さい子からおじいちゃん、おばあちゃん、年齢層の幅もすごく広がったように思います。あと、お天気も非常によかったというのもありまして、ああいった屋外での取組は何となく安心感があるといいでしょうか、お弁当を食べている方々もいらっしゃいましたけれども、ふだんはあんなに人は来ていないですね。</p> <p>今年はすごくそういった公園だとか、バーベキューだとか、アウトドアに皆さん、屋内じゃなくて屋外で遊ぼうみたいな、そういったことをもう少し突き詰めていけば、公園ですとか、例えば街中の商店街といったところも、もうちょっと展示をするような場所に持っていくとか、アウトドアでもう少し区民の幅広い層の方が、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんたちまで触れられるような、助成金も行き渡るといいでしょうか、見ていただければいいのかなという感じがいたしました。検証していくということは本当に大事なことかなと思いました。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。引き続き、お願いします。
委員	<p>今年取組については、各委員からもありましたように、金額、それから制度設計を含めて手早く、自治体としては割と大きな金額を出して、当初の目的が達成されたことはすごく喜ばしいことだと思いますし、うまくいったのではないかと思います。</p> <p>ただ、今後の状況について僕はかなり危機的な感じを抱いていて、それはもちろん杉並区という地方自治体だけの問題ではなくて、国の問題でもありますが、非常に根本的な対応をとらないと、いろいろな領域のことは分かりませんが、少なくとも文化・芸術領域においては相当なダメージを受けるのではないかと。特にパフォーミングアーツ系はまだ日本では商業的なものと非商業的なものが混在している状況で、特に非商業的な部門に実は大きな負担をかけている部分があるので、その分をどうやって守っていくか。それはやはりそれぞれのアーティストが住んでいる地域が積極的に対処していただかないと、本当に大変なことになるのではないかと考えています。</p> <p>それで、3点だけお願いがありますが、皆さんがおっしゃったように、今年あった事業中心ではなくて、何とか継続するための少し長期的なビジョン、少なくとも中長期的なビジョンを持った制度を時間かけて作っていただきたいということが1つです。</p> <p>眼目は、1つは場の維持ですね。杉並区という場を持っている、その場をどうやって継続させるかという問題。もう1つは継続性。つまり、これまでやってきたし、これからもやっていけるだろうという団体、個人を中心に応援していく。それから、アマチュアとプロをきっちりと仕分けする。これは両方ともとても大事な活動です。</p> <p>ただ、今はそこがちょっと混在しているので、特にプロフェッショナル系についてはかなり淘汰をしないといけないと思います。つまり、質的にいいもの。プロフェッショナルのほうは作品を通して地域に還元していくわけで</p>

	<p>すから、やはり質のいいもの。それから、アマチュアのほうはまた質とは別に、さっき言ったような活動の継続性であるとか、どれだけ広がっているとか、ちょっと視点が変わると思いますね。それを一括した視点ではなくて、識別できるような制度設計ができると有効に働くのではないかと思っていますので、その3点、ちょっとご留意いただけるとありがたいと思っています。</p>
会長	<p>非常に具体的なご提案をいただきまして、ありがとうございました。 では、引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>杉並公会堂のほうは、この支援事業をご利用された方は、当初我々が想像したよりお問合せとかがあまりなかったかなという印象です。ようやくここに来て何となく動き出してきたかなという感覚がございます。我々もこういった事業がありますよということで宣伝をさせていただいたりした中で、ぜひという方もいらっしゃれば、そういう話ではないという方もいらっしゃって、アマチュアの方は、今も委員からもお話がありましたが、やっぱりお金だけではないハードルもちょっとあるのかなと感じました。</p> <p>助成金云々もそうですけれども、感染防止対策を施設がしっかりすることによって、こういった事業がスムーズに行われていくのだろうという認識もお客様から結構痛感させられる部分がございます。</p> <p>ただ、いずれにしても、こういった事業でかなり杉並区の文化・芸術が一時期に比べると大分広く皆さん、活動されてきているのかなと痛感しています。ぜひ今後とも進めていただければなというのが私どもの実感でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>2 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について</p>
会長	<p>続きまして、2番の議題「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について、ご説明を事務局のほうからお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>それでは、私から資料3の「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について、ご説明させていただきます。資料3を御覧ください。</p> <p>杉並区では「NPO・ボランティア活動及び協働の推進に関する条例」に基づきまして「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」「バタ・アート・エキシビジョン」を展開してございます。</p> <p>「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」は、平成27年度から区民の方々が創作した作品の展示・発表の場を確保したい、また、文化・芸術の鑑賞機会を充実させたい、地域の様々なアートをまちの魅力やにぎわいにつなげていきたいという思いから、これまで様々な事業を展開してまいりました。</p> <p>このアートプロジェクト事業の1つの成果としましては、杉並区在住のイタリア人のイラストレーターの方が、オリンピックの事前キャンプをする予定であったイタリアのビーチバレーボールチームの応援をする横断幕を制作するなどいたしました。</p> <p>続いては、バタ・アート・エキシビジョンですが、こちらは阿佐谷で毎年</p>

	<p>開催されております七夕祭りの来街者向けに、竹で制作された立体物の中にライトを内側から照らして、それを複数設置することで幻想的な演出をしている展示でございます、平成29年度から実施してございます。</p> <p>昨年度は、道を行き交う人々に気軽に地元由来・日本由来の伝説や技巧を、杉並で活躍する作家が作り上げたアート作品として楽しんでいただくストリートアート展として展開しまして、具体的な内容としましては、会社の窓ガラスですとか、民家の軒先や車庫、飲食店やマンションの花壇など、ほんの小さな空きスペースを使って和風アートを表現しまして、日本の夏の風情を感じていただくイベントを行いました。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、イベント等の事業の見直しを行いまして、時間や場所を問わず杉並の文化・芸術に親しむことが可能であるということから、「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」と称しまして、オンライン上に美術館を開設することといたしました。</p> <p>既にこちらは10月1日からオンライン上で公開が始まっておりまして、本日はこちらのスクリーンに映し出してみますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは皆さん、スクリーンのほうをご注目いただければと思います。</p> <p>「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」と検索エンジンを使って検索していただくとすぐに出てまいります。その場にいるような雰囲気をかもし出しながら制作をお願いしました。資料3をご覧ください。企画展、区民展、常設展と3つのコンテンツを設けました。</p> <p>皆さんももしよろしかったらご自宅等のパソコンでご覧いただければと存じます。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>これは、事業として杉並区が直接コンテンツ制作事業をやっているということでしたか。コンテンツの制作を杉並区が直接手がけているということでしょうか。</p>
文化・交流課長	<p>事業者と協働事業でやっていますので、コンテンツそのものはNPO法人が作っているということになります。</p>
会長	<p>それは、割に長期的な継続を前提にされているわけでしょうか。</p>
文化・交流課長	<p>そうですね。今回、コロナ禍ということもあって、オンラインの活用もありますが、杉並区には大きな美術館がないということもありますので、こういったソフトウェアを使って、少し何かおもしろい展開ができないかなということで、今まさに始まってはいるんですけども、今後さらに発展的にやっていきたいなという思いがあります。</p>
会長	<p>初めて御覧いただいた方も多くいらっしゃると思いますが、何かご質問をどうぞ。</p>
委員	<p>すばらしいなと思いました。いい出来だなと思いました。</p> <p>ちなみになんですけども、そのご一緒されているNPOさんはどのような</p>

	なNPOさんでしょうか。
文化・交流課長	阿佐谷で活動をしている、チューニング・フォー・ザ・フューチャー、略してTF Fと言うのですが、本当に多角的にいろいろな事業をやっている方たちで、区の施策にも非常に協力的でございます。
委員	分かりました。ありがとうございます。
会長	ほかにご質問その他、ありますでしょうか。3番目の議題に移りたいと思います。
	3 杉並区基本構想審議会の主な経過（文化・芸術分野）について
会長	「杉並区基本構想審議会の主な経過について」ということですが、事務局からご説明をお願いいたします。
文化・交流課長	<p>そうしましたら、資料4-1から4-3までご用意いただきまして、基本構想について進捗状況も含めてご報告させていただければと思います。</p> <p>現在の基本構想でございますけれども、平成24年度に策定しまして、次回は令和4年度から次の10年間を見据えた基本構想ということで、今まさに基本構想審議会を立ち上げているところでございます。</p> <p>資料4-1の「基本構想とは」という資料を御覧ください。</p> <p>基本構想は、区政運営の全ての基本となるものと位置づけておりまして、杉並区自治基本条例でも定めてございます。基本構想は区の最上位の計画となっておりまして、その基本構想に基づく区の計画体系は、基本構想・総合計画・実行計画の三階層となっております。</p> <p>次の10年間を見据えた基本構想の検討につきましては、本年、第1回目の審議会が8月25日に行われて、第2回目が9月17日に行われました。</p> <p>資料4-2の委員名簿を御覧ください。区民公募、区議会議員、学識経験者と様々な方がいらっしゃいますけれども、文化・芸術関係としましては、例えばコラムニストの泉麻人氏ですとか、ミュージシャンのタケカワユキヒデ氏も加わっております。総勢42名でやっております。</p> <p>第1回目の区長の冒頭の挨拶では、「基本構想は将来の区民生活を明るく、豊かにしていく上でのいわば羅針盤のようなものだ」と申し上げておりまして、「コロナによって社会の装いは一変しているが、新たな区政の道筋、今後おおむね10年間のビジョンをご議論いただくこの審議会は、コロナ後の社会をイメージしつつ、区民の皆様とともに夢を描き、共有する大変重要なものである」というふうに述べてございます。</p> <p>この基本構想ですが、文化・芸術振興審議会と同様に部会を構成してございまして、文化・芸術の審議に当たる部会は第三部会ということで、私も加わっておりまして、その中で、「子ども、学び、スポーツ、文化」とかなり幅広いテーマにはなっていますが、部会でも全部で5回程度やるような形で、細かく議論を行っているところでございます。</p> <p>ちょうど今週の木曜日に基本構想の部会を、文化、スポーツをテーマにし</p>

	<p>て実施する予定がございまして、その中でも、今日この後のご意見等をうまく共有できるような機会があればなと思っております。</p> <p>基本構想の実現に当たりましては、具体的な道筋となる総合計画の中で定めてございまして、この総合計画の中では、指標として1つ、区民が文化・芸術に親しむ回数ということで、区民意向調査から集計したものを使用しております。これまで文化・芸術活動の助成金ですとか、日本フィルハーモニー交響楽団との提携事業を通しまして、令和元年度は区民1人当たりの文化・芸術に親しむ回数が平成24年度と比べて1.4回増えてございます。</p> <p>資料の4-3を御覧いただきまして、グラフが4つありますが、その一番下のところを見ていただくと、右肩上がりにはなっているかなというところがございます。ただ、令和3年度末の目標は、全体が5回、区内の文化・芸術鑑賞に触れる機会は3回としていますけれども、そこに到達するのはちょっと厳しいかなという状況になってございます。</p> <p>また、文化・芸術について杉並区が向き合うべき具体的な大きな課題が2つあると考えてございまして、様々あると思いますが、絞ると2つと考えてございます。まさに今、文化活動が制約される中、オンライン配信ですとか、バーチャル空間等のICT活用の促進が叫ばれているかと思っておりますけれども、引き続き、区民が安心して文化・芸術に親しむ場と機会をICTとの連携をうまく活用して確保していく必要があるのではないかと考えてございます。</p> <p>2点目は、杉並芸術会館、座・高円寺を例に出しますと、来館者の約6割の方が高円寺の地域で買い物をするという調査結果が出ております。文化・芸術の振興は区民の心を豊かにするだけではなくて、来場された方がそのままその足でお買い物に行ったり、飲食をされたりということで、地域のにぎわいですとか、産業、観光、まちづくりの分野にもつながっていくかなと思っておりますので、そういったところとの連携・協力をより一層深めていく必要があるのではないかと考えてございます。</p> <p>この新しい基本構想ですけれども、令和3年、来年6月に素案をまとめまして、同じ年の9月に議会で議決をする予定となっております。この文化・芸術振興審議会におきましても、この基本構想審議会で検討された内容をお伝えしていきながら、杉並区の文化・芸術振興の在り方についてご意見等を頂戴できればと考えてございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>区の全体の政策の中での基本構想の位置づけをご説明いただき、それが総合計画等にどう反映されるのかをご説明いただき、どういう視点で文化・芸術が捉えられているのかということについて、この資料の4-3でいろいろデータを使って説明がされていて、ただ、来年度の活動の見込みは少し回数としては低下するのではないかなというようなお話だったかと思っております。</p>

	<p>これに関して、今注目されている点を含めて、何かこういう点をもっと重視されたいとか、足りないのではないとか、そういうご意見がありましたらお寄せいただくと、その基本構想の委員会にも伝えていただくことが可能かと思えますけれども、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>1つ質問ですけれども、この4つ目の「親しむ回数」というのはどういうふうに調べているのでしょうか。</p>
文化・交流課長	<p>これは、区民意向調査というのを毎年区が行っていますけれども、無作為で1,500人ぐらい抽出して、その区民の方にアンケートを行います。文化・芸術に触れた回数はどのぐらいですかという質問に対しての集計です。</p>
委員	<p>それは、文化・芸術だけのアンケートではなくて、いろいろなものがあるのですね。</p>
文化・交流課長	<p>そうです。</p>
委員	<p>そこはちなみに、例えば次の年から変えられるとか、あるのですか。</p>
地域活性化担当部長	<p>変えることはできなくはないですが、変更すると、経年変化の傾向がみられなくなる想いがあります。</p>
委員	<p>そうですね。こういう数字はひとり歩きしてしまうところがあるので、とりわけ今回のような特別な状況が起きている中で、それでも数字が落ち込んでいたりするのはあまりよろしくないなという感じがちょっとすることですね。</p> <p>ただ、感覚的な問題で申し訳ないですけれども、今回のコロナウイルスの蔓延の中でみんなが感じたのは、むしろ文化・芸術が大事なんじゃないかということだったと思います。なので、何かそういうことをもうちょっと聞けるような、例えば分からないですけれども、杉並区が幾ら文化・芸術に使っていますと。それについて、具体的に自分が行ったり行かなかったりじゃなくてもいいけれども、文化とか芸術の価値を改めて認識できたとか、何か抽象的になっちゃうかもしれないですけれども、もうちょっと直接的にそういう、行かなくても価値を認識したみたいなの部分を聞いてもいいような気がします。ちょっとそういう方向に転換をしていながら。こういう数字で見せちゃうのは、あまりよくないなという感じがしたということです。以上です。</p>
会長	<p>目標設定、ゴールが分かりやす過ぎるといえるか、そんな感じですかね。</p>
委員	<p>そうです。お金を出しているところにどれだけ人が来たかみたいな見せ方ですよ、これって。それで何となく来ていないとなると、お金を出しているのに、税金を使っているのに、これだけみたいな見方をされちゃう可能性があると思うのです。決してそうじゃないと思いますね。なので、何か聞き方なりデータのとり方を変える必要があるのではないかなというふうには思いました。</p>
文化・交流課長	<p>今お話があったように、確かに無作為抽出で選んだとはいえ、今、微増傾向にはなっていますけれども、果たして本当に文化・芸術で我々が打った施</p>

	<p>策と、そのたまたま選ばれた1, 500人の方が連動しているかはなかなか難しい部分もあるかなと思っていて、確かに継続性という意味では平成24年度から同じものを取り続ける必要もありつつ、今後どうしていくかというのは少し大事な視点かと思います。ありがとうございます。</p>
委員	<p>この4番目のグラフを見て、そんな月3、5回も行っているのかというのは、とてもびっくりするぐらい高率だと思います。ただ、文化政策的に考えますと、こういう数値が上がるというのは、ものすごい頻繁に行く人が増えればそれだけ平均がぐっと上がってしまいますので、大事なのは行動者率かなど。月とか年とかに1回以上文化に触れたことがあると答えた人の割合がどのぐらいかということのほうが、あらゆる人が文化に触れることを考えますと、大事な数字なのかなと思います。</p> <p>今回、こういうコロナの中で格差がどんどん広がっている。困窮している人はどんどん困窮している。配信とかウェブでといっても、そういったIT機械を常時使うことができないようなご家庭もあるわけですから、そういうことを考えると、やはり行動者率、触れた回数が最低1回以上あるとかいうことでの数字が必要かなど。社会生活基本調査の中には、大雑把な分類ですけども、そういった文化に触れる行動者率なんかはありますので、それに並行するような形での指標の取り方をひとつお勧めしたいと思います。</p>
会長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>指標として違うものを入れる、あるいは増やしてはどうかということのご提案で、非常に有効なのではないかと思います。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>日本フィルと座・高円寺の来館者の数字とか何かというのは、長期的に見たら今、高齢化が進んでいて、今までのオーケストラとか、こういったところを支えてきた団塊の世代の人たちがもう後期高齢者に入ってきていて、そういった中でかなり減ってきているのは事実ですね。かといって、杉並区の文化が全体的に高齢化になっているかということ、必ずしもそうではなくて、例えば演劇の劇団とかの数を出していくと、東京都23区の中で杉並の中にどれぐらいの比重を占めているかということ、かなり大きいと思います。</p> <p>そういった何か杉並区の特質みたいなもの、文化の財産、基盤というか、そういったものが若い人なんかを吸い寄せているから、多分この下の「今後の課題」のこっちのほうに、高円寺にしてもいろいろなところにしても、若い人たちの定住化が杉並は最近進んでいるし、そういった人たちがいろいろな地域のイベントとかに来ることが、文化・芸術に親しむ回数がまた増えてきているという傾向を裏付けているのかなという感じがいたします。その辺の客観的な、杉並区でやっている周辺的な指標が1つあって、それと同時に何かあると、この数だけだと結構そういったイメージにとらわれるけれども、実際は若い人もいろいろ活動しているから600件という応募があったのではないかなと思いますけれどもね。</p>
会長	<p>ありがとうございました。時代の流れを映すような新しい指標が取り入れ</p>

	られるといいのではないかとということです。
委員	そうですね。
会長	そこに子どもとか、スポーツとか、文化が入ってきて、世代連携とか、教育とかいうキーワードがあったと思いますけれども、そういうところに入ってくるというのかなと思います。何か他にございますか。 では、次に移らせていただいてよろしいでしょうか。
	4 その他 ・杉並応援曲「Go for it !」について など
会長	事務局からお願いいたします。
文化・交流課長	「その他」のところですね。 杉並区では、東京2020大会の事前キャンプを行うイタリアとウズベキスタン、パキスタンの選手を応援する「Go for it !」という曲が完成しまして、本年8月5日に日本フィルハーモニー交響楽団様と杉並区立桃井第五小学校の合唱部による収録を行いました。NHKからも取材があって、当日報道もされたのですが、すばらしい出来になっていますので、ぜひもう1回スクリーンのほうをご注目いただければと思います。 (スクリーンにて、「Go for it !」上映)
文化・交流課長	今御覧いただいた「Go for it !」なんですけれども、今後、譜面と併せて区立全小・中学校へ配布しまして、来年度予定されております事前キャンプ実施時のウェルカムセレモニーですとか、聖火リレー出発式等において、吹奏楽にて演奏ができるよう、各校で練習を進める予定となっております。 今御覧いただきましたように、ユーチューブで公開しております。その公開も併せて、区内の図書館や文化・交流課でもCDを貸出す予定になってございます。以上です。
会長	今後いろいろ活用されるということで、作って終わりではないということなので、非常にいい活動だと思います。 それでは、その他までまいりましたので、本日、多岐にわたる内容をご議論いただきましたけれども、先ほどの応援曲の感想なども含め、何か一言ずつ皆さんから言っていただくとありがたいかなと思います。 それでは、お願いします。
委員	今の10年計画もそうですけれども、やっぱり今回のコロナ以降、大きな社会変化があるというふうに考えるべきだと思いますね。文化・芸術の在り方も今までとは全く違う、特に地域性を重視することというのは、これから在宅勤務なんかも考えると、徒歩圏内のいろいろな充実はすごく重要な取組になると思います。 また、そんなに早急にやらなくても、これは先ほどと真逆になるのですけれども、今まで施設中心に考えられていたことが事業中心に、例えばトロールの森のように総合的にいろいろなことがやっていける。場所としても別に

	<p>専門ではなくて、近所のお店屋さんでも小さな集まりはできるわけですから、そういう形での豊かな実りみたいなものを追求するという、新しい文化・芸術の形に目を向けるという、特に10年計画のような長期的なものの中ではこれからの変化をぜひ織り込む必要があると思いますね。今までずっと惰性的にやっていた文化・芸術を発展させていけば何かがあるというのから、もう少し取組全体の基本構造が変わる必要があると強く感じているので、そのあたりをご議論いただければと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>今の「Go for it!」を見ていただくと分かるとおり、実は今日も私、大学生とZoomで会議をしていたのですが、その中に区民が何人かいらっしゃって、杉並公会堂という名前を出すと、「10年ぐらい前ですけれども、小学校のときコンサートを聞きに行きました」ということで、話していくうちにどんどん思い出してきて、「そういえば、あのときこういうふうなことがありましたね」みたいなお話をされていたのですね。それは多分、5月、6月ぐらいに教育委員会さんがやっている日本フィルさんの小・中学校の演奏会です。</p> <p>先ほど公会堂の数字がだんだん減ってきているというのは、恐らく有料のコンサートの合計ですかね。公会堂の合計が出ているのは。ですから、それ以外にもお子さんとか、あるいは最近ですと、敬老会とかでも日本フィルさんの演奏会をしたり、そういう面では杉並区は文化に触れ合う機会がすごくたくさんあるのかなと。私なんか区外の人間からすると、すごく実感をしているのですね。すごくいいことだと思います。歌われたお子さんたちはこれから一生記憶のどこかに残っていくので、こういった取組をもっともつとやれるように我々が努力していかなきゃいけないのかなと痛感します。</p>
会長	<p>ありがとうございます。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>私も杉並区に住んでおりますので、娘も杉並区生まれで、それこそ公会堂さんで成人式をさせていただいた思い出があります。やっぱり遠くのギャラリーよりも身近なところの、本当に買い物帰りでも寄れる、知らない間にちょっと絵が見られるみたいな。例えば、それこそ閉まってしまったシャッターのところに絵を描いてみるとか、今、コロナになってからはあまり遠出しなくて、近くで買い物も何も済ませてしまうことが非常に多いので、やはり近くのところを充実していけるようにやらせていただけるといいのかなと思いました。</p> <p>それで、このウェブ・ミュージアム、とてもよかったと思いますので、こういうことも含めて、ただ、今ウェブになっているからウェブだけということではなくて、五感を大事にできるような何かとつなげていけると、よりいいのかなと感じました。以上です。</p>
会長	<p>引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>私は杉並区文化団体連合会に所属しているのですが、もう69年前から総</p>

	<p>合文化祭をやっています。これにつきましても、今、どっちかという老人クラブみたいになっていて、役員の平均年齢が80歳を超えているわけですね。そこで初めて文化団体連合会の会長を拝命いたしまして、気がついたことは、やはりマンネリズムになっております。今度、聞くところによりますと、指定管理者がセッションに入ることになりましたもので、今、座・高円寺でやっていらっしゃるようなすばらしい企画がこれから指定管理者によってやっているといますね。</p> <p>我々、文化団体連合会としましても一皮向けて、これから新しい文化・芸術、老人会になってしまっても、その人たちがどうやって楽しんでいくか、さらにどういう企画をしたら来場者が増えるかということもこれから真剣にやっていかなきゃいけないと改めて感じた次第でございます。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。引き続き、お願いします。
委員	<p>今の映像、すばらしいなと思いました。子どもがああいう体験ができるというのはとてもすばらしいことで、あれはウズベキスタンとかイタリアの人を応援するためのものだと思うのですが、それよりも、先ほどおっしゃいましたけれども、地域の活動を応援するほうにつながっていくといいかなと。ちょうど日本フィルさんとこれもやられたということで、日本フィルさんと一緒にやったということは絶対覚えていると思います。なので、それがそちらの方向に向かってみんなで応援していくような雰囲気が小さいときから醸成されてくると、杉並って本当に文化が豊かだねというのを大人になってからも感じるのではないかなと思いますので、ぜひ公演活動をもっと上手に広げていけるといいかなと思いました。</p> <p>というのも、先ほどトロールの森の件もありましたけれども、皆さん、トロールの森をやっているのをご存じだったのかしらというのがあります。今、目が向いて、地域でこんな活動をやっているのだということで、だんだん親しみが湧いてくるような状況がむしろ今あると思いますので、これはこれで活用しながら、地域に目を向けてもらうようになるといいんじゃないかなと思いました。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。引き続き、お願いします。
委員	<p>応援曲、多くの方の力でできたのですが、映像を見ると、ただ曲というよりも、このコロナで大変な時期にこれを作ったということはすごく意味があるのだと思いますね。ああいうディスタンスもとりながら、オーケストラも距離をとりながら、そういう中でこういう応援歌を作っていくという。ただ応援するというだけでなく、今コロナによってそれぞれが分断されているというか、人の気持ちも離れているし、距離も離れている中で、それを1つにまとめ上げていく。</p> <p>文化・芸術が大切と言われてはいますが、本当に文化・芸術の果たす役割とはどういうものなのかというのを我々演奏家もしっかり考えていかないと、ただ表現するだけじゃなくて、それが子どもたちであったり、地域で</p>

	<p>あったり、崩壊していくコミュニティをどうやって作っていくかという、そういう大きな役割があるのだなということですね。これは、もとに戻るには5年、10年という長いスパンでやっていかなきゃいけないということを頭に入れて、いろいろな計画を立てていかなきゃいけないと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>私も今の応援曲を聞いて、すごくいいなと感じました。もともとオペラとかオーケストラを聞く機会があったのですが、やっぱり地元杉並区にオーケストラの本拠地があるという、我が町のオーケストラという位置づけがすごくうれしいと思っています。</p> <p>今私が住んでいる地域には座・高円寺があります。実は座・高円寺ができるまで、ほとんど演劇に接する機会がありませんでした。宝塚ですとか、歌舞伎、能を観覧することはあったのですが、肉声で演じる演劇を見る機会はほとんどありませんでした。劇場が完成してから時々伺わせていただいています。身近に劇場ができ、演劇に接する機会に恵まれるようになって本当に良かったと喜んでいます。</p> <p>来年2月に開催される高円寺演芸まつりは11回目になります。これは座・高円寺を中心に地域のお店などを会場に、まちなかで開催されます。このように地域住人が自分たちの街の中で行事やイベントを楽しみ、その拠点の役割を座・高円寺や杉並公会堂が担っていることを嬉しく思っています。</p> <p>それぞれの施設とも運営管理には、ご苦労も多くおありになるのではないかと存じますが、杉並区としても区民が集える広場となっている2つの拠点と、そこで活動している方々を支援して下さるような施策を引き続きお取りいただくことをお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>日本フィルのメンバーが、部活が全くできていない杉並区の中学生の吹奏楽部を直接指導するということで来ていただいたときに、今の映像だけを見るととても立派ですけれども、裏を見ていると大変なもので、指揮者から演奏者まで4メートル離して、お隣との距離を2メートル離して、事務局の方が常にメジャーを持って計り回って、楽器を並べるだけで1時間かかるような、多分そういった中であの映像を撮られて、大変な感染対策をして日本フィルの方々が演奏に臨んでいらっしゃるんだなというのをちょっとつけ加えたいなと思いました。</p> <p>あと、一方で教育の話を少しいたしますと、そのときに中学生の吹奏楽部で楽器を習いたいという子どもたちを募集したら、あまり集まりませんでした。中学校の吹奏楽部が、杉並区においては実は部員が集まらないような環境がある。どういうことかということ、学校に練習する楽器がないという、一方でそういった現象があるのも確かです。</p> <p>そういう意味では、ハードのことも含めてなんですけれども、せつかく日</p>

	<p>本フィルがあって、座・高円寺があって、いろいろな芸術に触れる機会はあるのですが、子どもたちが芸術に親しむ環境を大切にする杉並区であることが将来この街を、芸術に親しみながら暮らしていく世代につながるのではないかなという気がしながらあの演奏を見ておりました。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>もう皆さんからお話が出ているように、やはり杉並区の子どもたちや地域の人たちが身近なところで文化に触れるということは、ほかの自治体に比べてもはるかに多いのかなと思いますね。そこでまちづくりとか何かと連動するというのはすごく素晴らしいことだと思いますし、商店街の振興にも役に立つのかなと思います。</p> <p>あと1つ忘れてはならないのは、行政がやっていかなければいけない文化・芸術というところで行くと、レコードといいますか、本当の芸術的なものを遺産としてきっちり残していく役割もやはり必要なことだと思います。そういった昭和とか何かで培われてきたものが次に消え去ろうとしているあたりの、その辺をどういうふうに残していくのかということのもまたこの論議の中で、文化区杉並をどう生かしていくのかということのも必要な視点かなと思いました。</p>
会長	<p>引き続き、お願いします。</p>
委員	<p>何人かの方もおっしゃっていますけれども、子どもたちが全身で音楽を感じていたのがとてもすてきだなと思ったのですが、やっぱり同じ場所で聞く音楽、感じる音楽って違うのかなというのを改めて感じました。コロナでオンライン会議なんていうのが増えていまして、自宅にいながらにして遠くの人と交流ができるという便利な側面もちろんありますけれども、今日みたいにリアル会議で、皆さんがうなずきながら聞いているところで、一緒に何か感じられるということも改めてすごく大事なことだなと思いますので、このオンライン、ウェブとリアルをうまく組み合わせて政策を考えていただけたらいいなと思いました。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>いろいろ皆様からご指摘を伺いまして、ぜひ基本構想のところでお伝えいただければと思います。</p> <p>私もちょっとだけまとめの意味でつけ加えさせていただきますと、先ほどのデータなり表がこのままでいいのだろうかというところで少しお話がありましたけれども、1つの考え方としては、周辺領域の政策課題とどうつながるのかという、教育ですとか、福祉ですとか、医療というところの指標がうまくつかめればいいなという気が1ついたします。</p> <p>それから、昔あったものがなかなかそのまま残らないということと言うと、アーカイブという捉え方がありまして、杉並区での政策としては、ウェブ・ミュージアムもそうですし、人間国宝を初めとしていろいろな文化人の方の活動を記録していらっしゃるということもありますので、方向性としては既に</p>

	<p>もういろいろなところでやっていらっしゃることだと思います。その辺の幅の広さ、多様性をぜひ文化政策のみならず、基本構想の中にも生かしていただけるように進めていただきたいと希望しております。</p> <p>皆様、ご意見ありがとうございました。何かつけ加えてお話しになることがありますでしょうか。よろしいですか。</p>
	<p>5 事務連絡</p> <p>・今後のスケジュール等の確認</p> <p>※第3回文化・芸術振興審議会（令和3年3月開催予定） など</p>
会長	<p>そういたしますと、5番の「事務連絡」のほうに移りたいと思いますが、よろしく願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>最後に、次回の予定につきましてご説明させていただきます。</p> <p>基本構想の策定に向けての進捗状況等についてご報告しまして、そのことに対してご意見を頂戴できればと考えております。</p> <p>次回の審議会の日程につきましては3月頃を予定してございます。また別途、ご連絡いたします。</p>
会長	<p>それでは、質問などございますか。よろしいですか。</p> <p>では、令和2年度の第2回杉並区文化・芸術振興審議会をこれにて閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>
	<p>－ 閉会 －（午後7時23分）</p>

令和2年度 第2回 杉並区文化・芸術振興審議会 次第

令和2年11月30日(月)
区役所分庁舎4階

- 1 すぎなみアート応援事業の実施状況について

- 2 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について

- 3 杉並区基本構想審議会の主な経過（文化・芸術分野）について

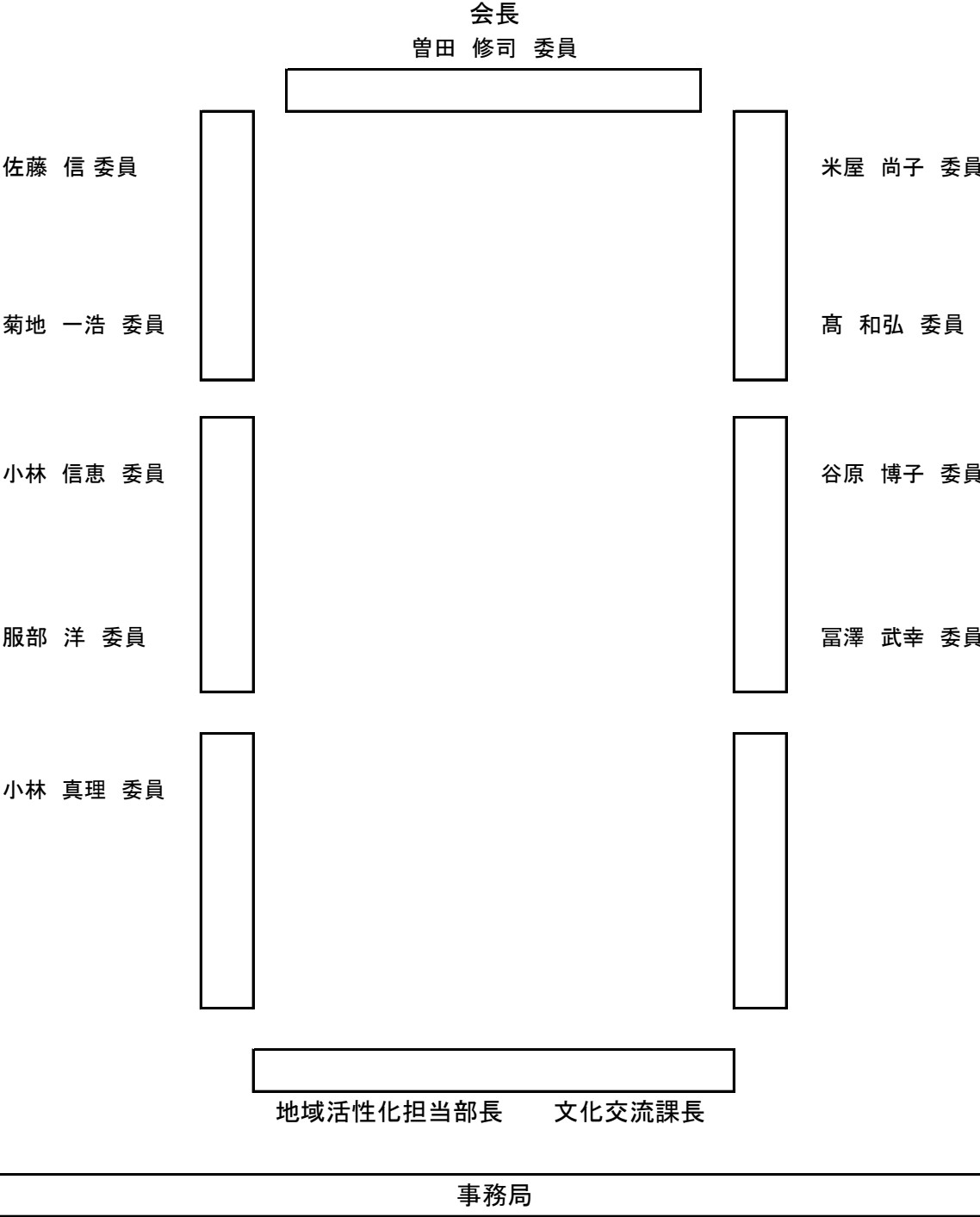
- 4 その他
 - ・杉並応援曲「Go for it!」について など

- 5 事務連絡
 - ・今後のスケジュール等の確認
 - ※第3回文化・芸術振興審議会（令和3年3月開催予定） など

【配布資料】

- 資料1： 第2回杉並区文化・芸術振興審議会 席次表
- 資料2： すぎなみアート応援事業～アートを応援、アートで応援～（報告）
- 資料3： 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について
- 資料4-1： 基本構想とは
- 資料4-2： 杉並区基本構想審議会委員名簿
- 資料4-3： 文化・芸術の振興（総合計画施策30）

第2回杉並区文化・芸術振興審議会 席次表



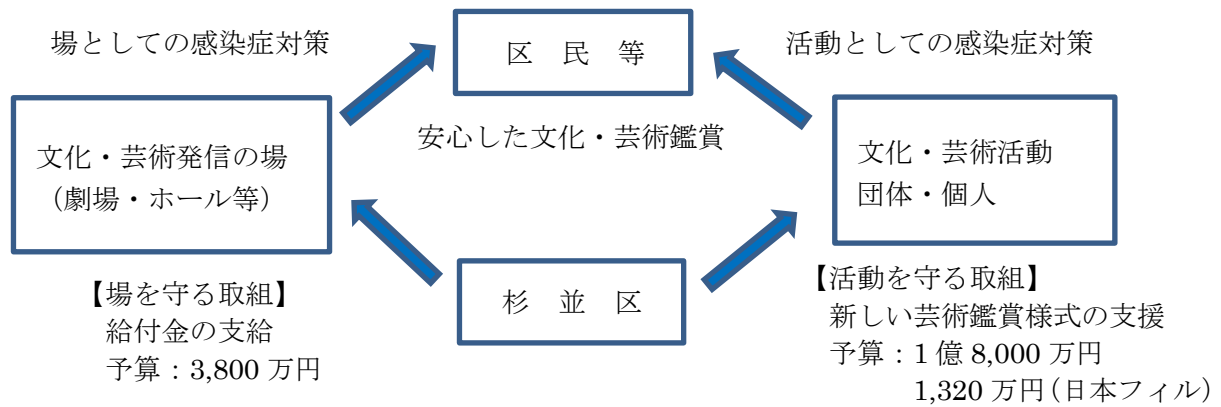


令和 2 年 11 月 30 日
文化・交流課

すぎなみアート応援事業～アートを応援、アートで応援～（報告）

区の文化・芸術を発信する場や表現活動を守るため、コロナ禍においても区民が安心して文化・芸術に親しめるよう立ち上げた、「すぎなみアート応援事業」の実施状況について報告いたします。

<事業のスキーム>



○文化・芸術発信の場継続給付金の支給【場を守る取組】3,800万円

感染症対策を講じながら文化・芸術を発信する区内の施設運営事業者へ給付金を支給します。

対象者	区内の劇場、ライブハウス、ホール、ギャラリー等の単独施設運営事業者 ※文化芸術基本法 8～12 条に挙げられている芸術を一般公衆に鑑賞させることを目的とする施設（ただし、12 条は茶道、華道、書道のみ対象）			
助成額	1 施設当たり （個人）20 万円、（法人）40 万円 ※国の持続化給付金の受給者を対象。			
事業規模	100 件程度			
スケジュール	募集	申請件数	給付件数 ※11 月末時点	給付済額（執行率）
	6/18～1/29	97 件	90 件（個人 44、法人 46）	2,720 万（72%）

○新しい芸術鑑賞様式の支援【活動を守る取組】1億8,000万円

区内で、3密対策等の感染防止策を講じながら活動する文化・芸術事業者へ助成します。

対象者	次のいずれかに該当する個人又は団体 ・杉並区内で活動実績があること ・杉並区内に在住する個人又は活動拠点を有する団体で活動実績があること ※1個人・団体につき1回申請、活動実績は平成31年4月以降			
助成額	1事業当たり 上限30万円			
事業規模	600件程度			
確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区契約における暴力団等排除措置要綱別表の排除措置要件に該当する団体でないこと。 ・政治的もしくは宗教的普及宣伝と認められる活動、または公序良俗に反する恐れがある活動を実施する団体でないこと。 ・国、地方公共団体、独立行政法人、その外郭団体でないこと。 ・納付すべき住民税（区市町村民税及び都道府県民税）及び事業税（法人の場合は法人事業税）に滞納又は未申告が無いこと。 			
審査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための対策が講じられた事業であるか。 ・対象期間内に、区内で実施される事業またはオンライン（区内の利用料金が明示されている施設を会場とする）で実施される事業、または「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」で展示する事業であるか。 ・広く区民等に周知され、区民等の鑑賞または参加の機会が提供されているか。 			
実績		募集	応募件数	承認件数
	第1期	6/1～7/31	288件	266件
	第2期	8/17～9/4	110件	103件
	第3期	9/23～10/23	236件	(想定) 227件
	合計	-	634件	(想定) 596件
	※ジャンルの内訳は精査中です。			
主な不承認事由	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項の対象事業の要件である「杉並区での事業実施」を満たしていないため ・募集要項の対象者の要件である「過去の公演実績」を満たしていないため ・募集要項の対象外事業である「発表会等の特定の構成員に向けた事業」に該当するため 			
応募承認者からの声(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・当助成事業制度に感銘を受けられた記者の方から取材を受け、「音楽の友」11月号に記事が掲載されました。 ・お陰様でお客様にも喜ばれる機会を設けることができ、感謝しております。 			

○日本フィルハーモニー交響楽団の活動支援 1,320万円

音楽を通じた区民の豊かな交流と地域文化の振興を目的に、区と友好提携を25年以上結んでいる日本フィルハーモニー交響楽団（以下「日本フィル」）は、新型コロナウイルスの感染拡大により、2月29日から70公演以上が中止となり約4億円の赤字を見込むなど、影響が広がっています。

そのため、感染症対策に配慮した日本フィルのオーケストラ公演を支援することで、区民が安心して鑑賞できる環境を確保しています。



■事業規模

1公演当たり220万円（6公演）

■公演実施状況

実施日	支援額	チケット販売数（入場者数）
令和2年8月30日（日）	220万円（550席分）	399枚（389名）
令和2年9月27日（日）	220万円（550席分）	467枚（449名）
令和3年1月20日（水）予定	未定	12月13日（日）発売予定
令和3年3月20日（日）予定	未定	発売前
令和3年3月28日（日）予定（2回公演）	未定	発売前

○令和3年度助成金について

令和3年度の助成金については、新型コロナウイルス感染症の影響及び今年度の助成金申請状況や文化・芸術分野の現況、動向を注視しながら、対象者や対象事業について検討していきます。

	従前	令和2年度新規
名 称	文化・芸術活動事業助成金	新しい芸術鑑賞様式助成金
趣 旨	杉並の魅力をもつめる質の高い文化芸術活動や、区民が参加・体験し、地域に広く普及していく事業に対し助成する。	コロナ禍で、区民が安心して芸術鑑賞できるよう、3密を防ぐ等の感染症対策を講じて実施する事業に対し助成する。
金 額	上限 100 万円	上限 30 万円
補助率	1/2	10/10
対 象 予 定 数	24 件	600 件
対 象 者	過去に区内で活動実績を有する個人又は団体	次のいずれかに該当する個人又は団体 ・区内で活動実績があること ・区内に在住する個人又は活動拠点を有する団体で活動実績があること ※活動実績期間： 2019年4月1日～2020年6月17日
対 象 期 間	令和2年度 (令和2年4月～令和3年3月)	令和2年6月18日～令和3年3月31日
予 算	1,000 万円	1 億 8,000 万円

「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」について

協働事業の一環として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたレガシー（未来へ繋がる感動や体験）の創出への取組として、杉並区を中心に活動するアーティストが中心となり、地元商店街や地域の学生と連携して「和文化」をテーマとしたアート展示イベントを 2017 年より実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等の事業の見直しを行った結果、時間や場所を問わず杉並の文化・芸術を親しむことが可能であり、アーティストは空間に捉われることなく発表の場を確保することができ、鑑賞者はパソコンやスマートフォンを通じて気軽に文化・芸術作品を鑑賞できる場として、「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」と表したオンライン上の美術館を、令和 2 年 10 月 1 日に開設しました。

アート作品の展示はもちろん、ミュージアムショップ、ライブラリー、ウェブならではの演出を展開していく予定です。

【概要】

○企画展

2017年から阿佐ヶ谷で実施している「BATA ART EXHIBITION」は、2020年は「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」での展示を中心に活動することにし、過去の人気展示をCGでアレンジし、過去3年間の展示記録を、アーカイブコーナーで紹介しています。令和2年10月20日から公開しました。

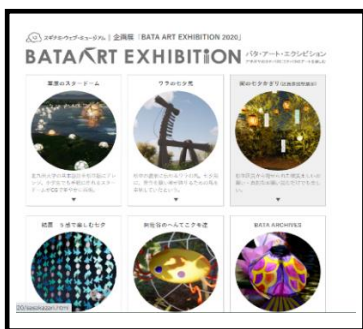
○「区民展」の運用開始

第 1 段として、都立善福寺公園をフィールドとした野鳥写真家で杉並区内の野鳥の魅力为全国に発信している西村眞一さんに声をかけ、「写真で楽しむ杉並の野鳥 冬 西村眞一写真展」を令和2年11月1日から公開しました。本展は都立善福寺公園を中心に撮影した冬の野鳥写真展で、公園内の「上の池エリア」をCGでアレンジした小さな世界のなかで、野鳥たちを探しながら楽しむことが出来るようになっています。

○「常設展」の運用開始

恒常的に存在する区の文化芸術、過去に存在していた伝統的な文化を幅広く周知しながら記録的な役割を担う展示を行っていきます。12月15日から「棟方志功展」を実施します。

◇企画展



◇区民展



◇常設展



基本構想とは

1 杉並区基本構想の概要

○基本構想とは

区民と区が共有し、力をあわせてこれからの杉並区を築いていくための指針であり、区政運営のすべての基本となるもの

【参考】杉並区自治基本条例(抜粋)

(基本構想等)

第 14 条 区は、区の最上位の計画であり、区政運営の指針となる基本構想を区議会の議決を経て定めるとともに、その実現を図るため、総合的な施策に関する計画等(「総合計画等」という。)を策定し、総合的かつ計画的な区政運営に努めるものとする。

○新基本構想策定の背景

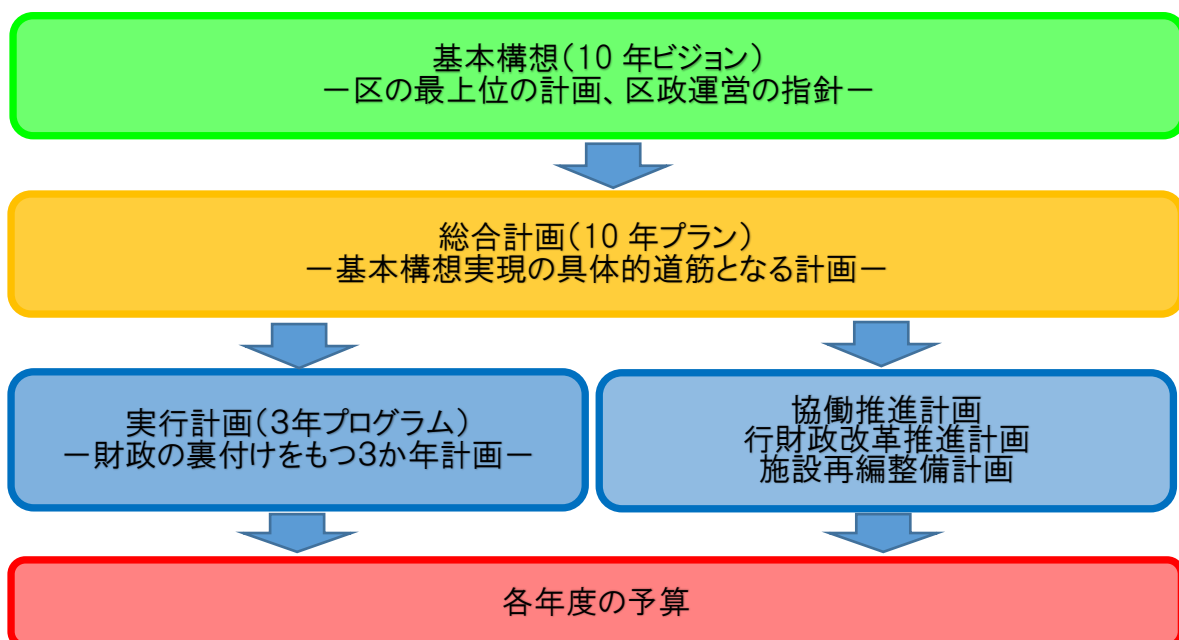
現・基本構想(10年ビジョン)の期間は、平成 24 年度から令和3年度までの 10 年間とし、区ではその実現を図るため、総合計画及び実行計画等を策定し、その後必要な改定を行い様々な取組を進めてきたところです。

令和3年度をもって現・基本構想が終期を迎えることを踏まえ、この間の取組実績や区を取り巻く社会経済状況等の著しい変化を見据えつつ、来るべき区制施行 100 周年も視野に入れた杉並区の将来像及び区政の進むべき方向性を新たに示す必要があることから、策定するものです。

○期間設定

区民が基本構想の実現可能性や実効性を感じられるものにするというこれまでの基本構想の考え方を維持しますが、期間を固定せず一定の弾力性を持たせるため、「概ね今後 10 年度程度」を展望したものとします。

○現基本構想に基づく計画の体系図



2 これまでの杉並区基本構想

制定等	理念	将来像	基本目標等
昭和 52 年 議決 (基本構想)	(目標期間・年次) 昭和 60 年代		
	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティの形成 ○公・共・私の役割と機能の確立 	<p>緑の豊かな 福祉文化都市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能と自然の調和した安全都市づくり ○健康と幸せを育てる福祉都市づくり ○区民の創造性をいかした文化都市づくり ○くらしの安定と向上をめざす生活都市づくり <p>【基本構想の実現のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域行政サービスの総合化 ○区政運営の総合化
昭和 63 年 議決 (基本構想)	(目標期間・年次) 21 世紀を展望		
	<ul style="list-style-type: none"> ○人間性の尊重 ○ふれあいと連帯の醸成 ○自然と文化の重視 	<p>みどり豊かな 福祉と文化のまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○みどり豊かな個性あるまち ○すこやかに共に生きるまち ○くらしが安定し活力のあるまち ○文化の創造と交流のあるまち <p>【基本構想の実現に向けて】</p> <p>長期計画の策定など 9 項目を規定</p>
平成 12 年 議決 (21 世紀ビ ジョン)	(目標期間・年次) おおむね四半世紀を展望		
	<p>※区民憲章として 全体像を 6 つ柱にまとめ</p>	<p>区民が創る 「みどりの都市」 杉並</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水辺をよみがえらせみどりのまちをつくろう ○やさしさを忘れず共に生きるまちをつくろう ○みどりの産業で元気のでる都市をつくろう ○未来を拓く人をつくろう <p>【21 世紀ビジョンの実現に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○責任を分かち協働する自治のまちをつくろう
平成 24 年 議決 (基本構想 10 年ビジ ョン)	(目標期間・年次) 令和 3 年度		
	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心を確保する ○住宅都市杉並の価値を高める ○支えあい共につくる 	<p>支えあい共につくる 安全で活力ある みどりの住宅都市 杉並</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に強く安全・安心に暮らせるまち ○暮らしやすく快適で魅力あるまち ○みどり豊かな環境にやさしいまち ○健康長寿と支えあいのまち ○人を育み共につながる心豊かなまち <p>【基本構想を実現するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加と協働による地域社会づくり ○持続可能な行財政運営の推進 ○区民とともに実現する基本構想

3 23区の基本構想「将来像等」一覧

【各区ホームページから調査】

区	将来像等
杉並区	支えあい共につくる安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並
千代田区	都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち千代田
中央区	輝く未来へ橋をかける — 人が集まる粋なまち —
港区	やすらぎある世界都心・MINATO
新宿区	『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち
文京区	歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文 <small>ふみ</small> の京 <small>みやこ</small> 」
台東区	世界に輝く ひと まち たいとう
墨田区	～水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ
江東区	みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東
品川区	輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ
目黒区	ともにつくる・みどり豊かな・人間のまち
大田区	地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた
世田谷区	信頼関係に支えられてだれもが安心して暮らすことができる都市
渋谷区	ちがいをちからに変える街。渋谷区
中野区	多彩なまちの魅力と支えあう区民の力
豊島区	未来へ ひびきあう 人 まち・としま
北区	ともにつくり未来につなぐときめきのまち — 人と水とみどりの美しいふるさと北区 —
荒川区	幸福実感都市 あらかわ
板橋区	未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち “板橋”
練馬区	ともに築き 未来へつなぐ 人とみどりが輝く わがまち練馬
足立区	協創力でつくる活力にあふれ進化し続ける ひと・まち足立
葛飾区	水と緑ゆたかな心ふれあう住みよいまち
江戸川区	創造性豊かな文化はぐくむ 水辺と緑のかがやく 安心と活力ある 生きる喜びを実感できる都市

※目黒区、中野区は新たな基本構想を策定中。

※練馬区は平成21年に策定した練馬区基本構想の将来像（現在は、グランドデザイン構想を策定）

杉並区基本構想審議会委員名簿

令和2年9月17日現在

区分	氏名	所属等	備考
区民 (公募・ 団体推薦) 【20名】	いしげ まさすけ 石橋 昌祐	公募	
	さいとう きこ 齋藤 貴子	公募	
	しみず たかあき 清水 孝彰	公募	
	にしやま ともしげ 西山 知樹	公募	
	はしもと つねお 橋本 恒郎	公募	
	はしもと みまこ 橋本 実希子	公募	
	ほんじょう きとこ 本城 智子	公募	
	まつもと かつまさ 松本 勝正	公募	
	あいだ りか 相田 里香	杉並区ケアマネ協議会 会長	
	いぐち しげとし 井口 茂利	東京中央農業協同組合 代表理事副組合長	
	いぐち じゅんじ 井口 順司	社会福祉法人杉並区社会福祉協議会 常務理事	
	こうだ きよし 甲田 潔	一般社団法人杉並区医師会 会長	
	こやま くにひさ 小山 訓久	特定非営利法人リトルワズ 代表理事	
	しかの しゅうじ 鹿野 修二	杉並区町会連合会 会長	
	たかはし ひろし 高橋 博	杉並区障害者団体連合会 会長	
	ないとう かずお 内藤 一夫	杉並区商店会連合会 会長	
	ほんごう たつひろ 本郷 辰博	杉並区立中学校PTA協議会 顧問	
	まつお ひではる 松尾 秀治	杉並区体育協会 副会長	
	やまのうち りんたろう 山ノ内 凜太郎	杉並第十小学校学校運営協議会 会長職務代理	
	わだ しんや 和田 新也	東京商工会議所杉並支部 会長	
区議会議員 【7名】	いわた いくま 岩田 いくま	杉並区議会議員	9月17日付け委嘱
	おおつき じょういち 大槻 城一	杉並区議会議員	
	そね ふみこ そね 文子	杉並区議会議員	
	とみた たく 富田 たく	杉並区議会議員	
	やまもと あけみ 山本 あけみ	杉並区議会議員	
	わまさか たつや 脇坂 たつや	杉並区議会議員	
	わたなべ ともき わたなべ 友貴	杉並区議会議員	
学識経験者 【15名】	あおやま やすし 青山 侑	明治大学 名誉教授	
	ありが たかし 有賀 隆	早稲田大学理工学術院 教授	
	いけだ かつひこ 池田 克彦	公益財団法人日本道路交通情報センター 理事長	
	いしもと ゆうせい 石元 悠生	駒澤大学総合教育研究部 講師	
	いずみ あさと 泉 麻人	コラムニスト	
	えさき ひろし 江崎 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授	
	おおたけ さとる 大竹 智	立正大学社会福祉学部 教授	
	おかべ たく 岡部 卓	明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 専任教授	
	おく まみ 奥 真美	東京都立大学都市環境学部 教授	
	きょうごく たかのぶ 京極 高宣	社会福祉法人浴風会 理事長	
	こうの ひろこ 河野 博子	ジャーナリスト、公益財団法人地域環境戦略研究機関理事	
	タケカワ ユキヒデ	ミュージシャン	
	なかばやし ひろのぶ 中林 啓修	国土館大学防災・救急救助総合研究所	
	まきの あつし 牧野 篤	東京大学大学院教育学部研究科 教授	
むらやま ひろし 村山 洋史	東京都健康長寿医療センター 研究所社会参加と地域保健研究チーム専門副部長		

※敬称略。各区分とも五十音順に記載

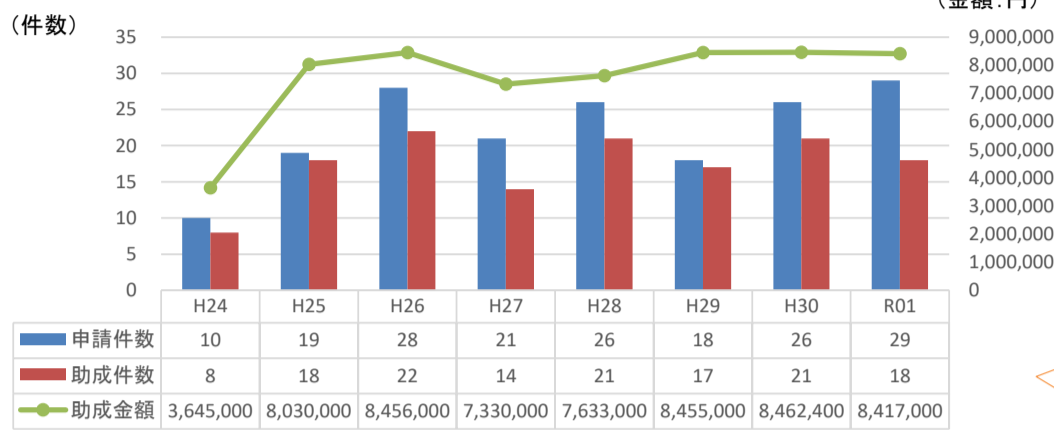
○文化・芸術の振興(総合計画 施策30)

施策の目標は、「区民が文化・芸術に親しむ環境を整備するとともに、地域の中で多様な文化・芸術活動が行われ、地域ににぎわいが醸成されるよう取り組む」としてしています。

こうした「文化・芸術の振興」の推進に向けて、平成24年度以降、ソフト面では①文化芸術活動助成金と②日本フィル友好提携事業を軸に、ハード面では③杉並公会堂と④杉並芸術会館(座・高円寺)を起点に、区民が文化・芸術に親しむ機会を確保し、また自主的な活動の活性化を図ってきました。

この間における主な取組状況と実績は、以下のとおりです。

【①文化芸術活動助成金】



○区内で行われる文化・芸術活動事業に対して、文化・芸術振興審議会(平成24年3月設置)の審査を経て、年間20件程度、事業経費の一部を助成してきました。

○コロナ禍にある今年度には、感染症対策を講じながら実施する施設運営事業者と活動事業者の双方を支援することを通じて、区民が文化芸術を楽しむことできる環境の確保を図っています。

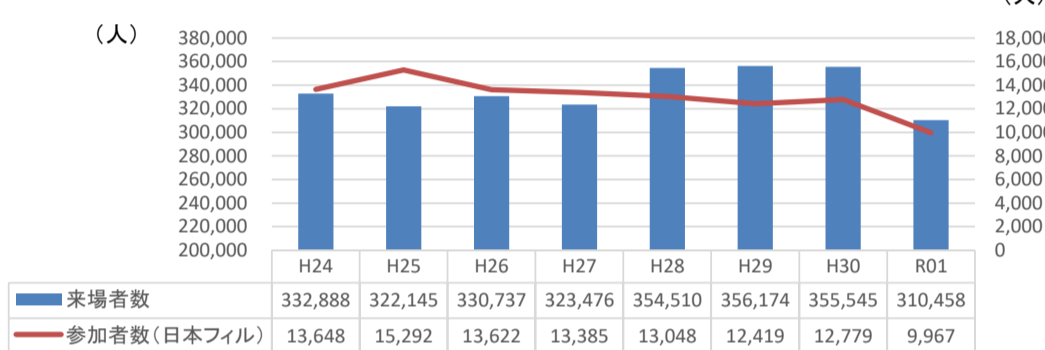
[参考] 文化・芸術振興審議会答申(平成24年)を受けて、助成金の方針転換

(～平成24年度)口
多様な文化・芸術活動に対して、幅広く助成

改善

(平成25年度～)
・助成を受けることではじめて達成できる項目や内容を充実できる活動へ重点を置いた助成へ
・次代を担う子どもたちを中心に地域と連携するような活動への助成へ

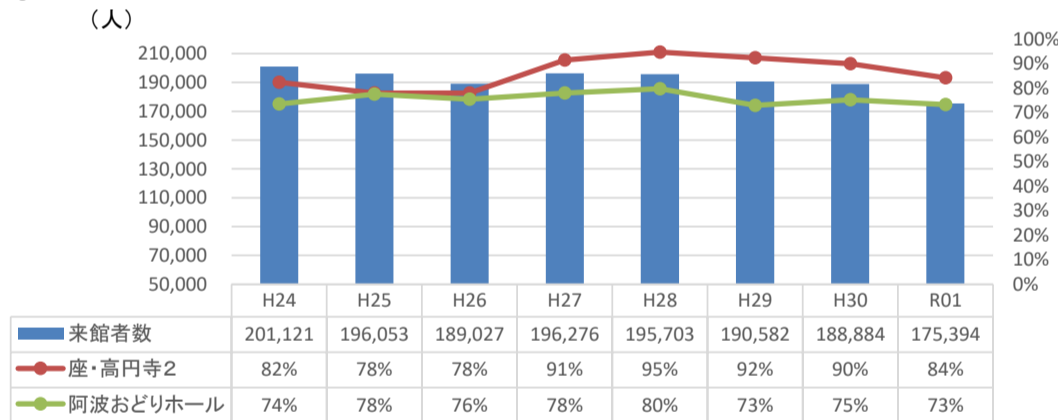
【②日本フィル友好提携事業参加者数・③杉並公会堂 来場者数】



○杉並公会堂を本拠地として活動する日本フィルハーモニー交響楽団と平成6年に友好提携を結び、区は公会堂利用料の一部を負担し、日本フィルは区役所ロビーコンサートや公開リハーサル、出張コンサート等、年間約40回の事業を実施しています。

○杉並公会堂は、PFI手法(民間事業者が施設の設計、建設、維持管理及び運営する)を活用し、平成18年に本格的なクラシックコンサートホールとしてリニューアルオープンしました。大ホール(1,186席)・小ホール(190席)、スタジオ(5カ所)等を兼ね備え、良質な音楽に触れる機会(年間約25公演)を提供するとともに、文化活動としてもご利用いただいております。年間約34万人が来場しています。

【④座・高円寺 来場者数・稼働率】



○区立杉並芸術会館(座・高円寺)は、地域に根ざした芸術文化活動の拠点として、平成21年5月に開館し、指定管理者(NPO法人劇場創造ネットワーク)の高い専門性や独自のノウハウを生かした運営を行っています。

○座・高円寺1(238席)

区のパートナーシップ団体である日本劇作家協会と連携し、質の高い演劇を中心とした舞台芸術(年間30公演)を提供するほか、区内小学生対象の演劇鑑賞体験等を実施しています。

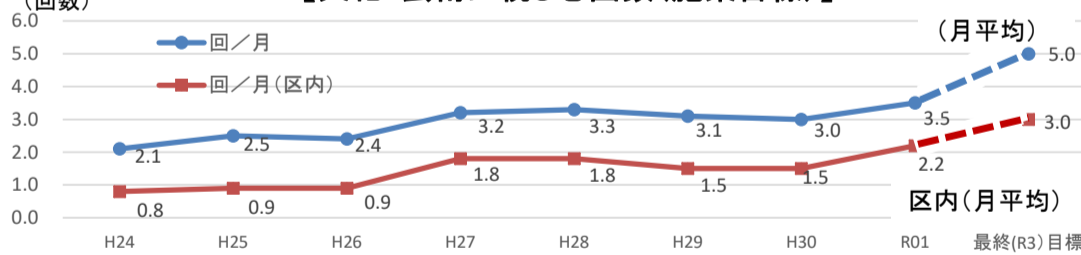
○座・高円寺2(256席)

区民等の多様な文化活動や集会・発表会・講演会の場として貸し出しており、年平均90%の稼働率となっています。

○阿波おどりホール

杉並区を代表するイベントの一つである「高円寺阿波おどり」の練習や外国人向け体験等を実施する会場として、地域の個性と結び付いたホール運営を行っています。

【文化・芸術に親しむ回数(施策目標)】



《施策目標の状況と考察》

○上記①～④に示した取組を進めた結果、「区民一人当たりの文化・芸術に親しむ機会」は、月3.5回(平成24年比1.4回増)、そのうち区内における機会は月2.2回(平成24年比1.4回増)となり、区民が文化・芸術に親しむ環境は整備されつつあります。

○国の文化・芸術鑑賞に関する世論調査(令和2年3月)によると、ジャンル内訳は音楽31.9%(平成21年比7.7%増)、演劇4.7%(平成21年比5.8%減)となっています。このことは、杉並公会堂の来館者数が増加傾向にある一方、座・高円寺は減少傾向にあることと整合しています。

■文化芸術の振興に関する国の基本方針(H26年度策定)

- ①あらゆる人々が創作活動へ参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ②東京2020大会に向けての文化プログラム
- ③被災地から、地域の文化芸術の魅力を国内外へ発信

■文化芸術振興基本法改正(平成29年度公布)※一部抜粋

文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の継承、発展に活用することが重要

[今後の課題]

文化・芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会を形成することに寄与しています。ウィズコロナ・アフターコロナの生活様式が求められる中、引き続き、文化・芸術により生み出される様々な価値を生かして、これまで培われてきた伝統的な文化・芸術を継承・発展させるとともに、独創性のある新たな文化・芸術の創造を促進していくことが重要です。そのため、以下の課題認識に立った取組を進めていきます。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年2月以降、日本フィル友好提携の回数・参加者数や施設来館者数は減少しており、令和3年度以降もこうした傾向が一定程度続くと見込まれます。このように文化活動が制約される中、オンライン配信やバーチャル空間等の「ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)」の活用も促進しつつ、引き続き、区民が安心して文化・芸術に親しむ場と機会の確保を図っていきます。

○文化・芸術鑑賞に関する世論調査からも、文化・芸術の幅広いジャンルを好む傾向があり、新たな需要を掘り起こし、文化・芸術が区民にとってより身近なものとなるよう、一層の研究・工夫が求められます。また、座・高円寺の来館者の約6割の方が高円寺地域で買い物する(来館者調査:令和元年度)等、文化・芸術の振興は、区民の心を豊かにするだけでなく、来場者等による地域のにぎわい創出など、地域振興の側面からも重要であるため、今後は、産業や観光、まちづくり分野等との連携・協力をより一層推進していきます。